

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)	◎	商店街（代表者）	・世界的にも景気が良く、我が国の株価も上がっている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・季節が平年並みに戻ればやや良くなる。
	○	スーパー（経営者）	・生鮮食品の価格が安定しつつある。大阪・関西万博も終了し、地元での支出増加に期待したい。
	○	スーパー（店員）	・サンマなど秋物の食材が安価に出回っており、豚肉はやや高騰しているが販売量が好調であるため期待している。
	○	スーパー（支店長）	・上昇し続けている物価に加え、政治の不安定化に伴う経済政策の停滞により、消費者の懐も厳しい状況が続いている。物価上昇についてはやむを得ないが、政府の政策に期待をするしかない。
	○	スーパー（販売担当）	・今後はハロウィーンやクリスマスなどいろいろなイベントがめじろ押しで、来客数の増加が期待され、比例して売上も上がる。
	○	コンビニ（店長）	・希望的観測であるが、このまま来客数の増加、単価の上昇を期待したい。最近比較的近いところに新しい道の駅がオープンし、多少の影響を覚悟していたが、全くといっていいほど影響はみられない。
	○	衣料品専門店（店長）	・長期予報で寒くなると予測されており、冬物の販売が増える見込みである。
	○	衣料品専門店（売場担当）	・これからの時期がスーツ販売の本番となる。成人式、就職活動、フレッシュャーズなどでスーツを必要とする人が増えるため、良くなると困る。
	○	家電量販店（営業担当）	・政権政党の体制が変わり、政策が少し動き出すことに期待する。期間限定ではあるが自治体のプレミアム付商品券も始まるため、やや良くなる見込みである。
	○	乗用車販売店（経営者）	・暑さが和らいできたため今後に期待したい。
	○	乗用車販売店（従業員）	・問合せ件数や人の動きが良くなっており、今後も伸びが期待できる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・総裁選挙の動向に懸かっているが、新しくなる体制には期待を持てる。また、年末に向かうことで景気は良くなる。
	○	その他専門店〔雑貨〕（店長）	・気温の変化とともに消費の伸長が期待できる。
	○	一般レストラン（スタッフ）	・新たな内閣に期待する。
	○	バー（経営者）	・年末に向けてやや良くなる。
	○	観光型ホテル（支配人）	・利益率の高い宿泊部門の予約が引き続き堅調である。料飲部門は良くも悪くもないといった予約状況である。
	○	都市型ホテル（総支配人）	・大阪・関西万博も終了し、時期的にも宿泊需要、レストラン需要の増加を期待する。
	○	旅行代理店（経営者）	・暑い日が長く続いたため、旅行に出る客の動きが鈍かった。秋になり涼しくなれば少し良くなる。
	○	タクシー運転手	・1年間の傾向として、秋から冬の年末にかけて全体的に良くなっていく。
	○	テーマパーク（職員）	・大阪・関西万博が終了することで当地域に観光客が戻る。
	○	パチンコ店（経営者）	・年末を迎えるため良くなる。
	○	美容室（経営者）	・秋を迎え涼しくなれば、夏の間外出を控えてきた客が戻ってくる。
	○	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・このまま人が動けば期待できる。
	□	商店街（代表者）	・物販は変化がない。テイクアウト商品は数人でシェアして人数分は買わない。週末の飲食店のランチタイムはどこも行列である。
	□	商店街（代表者）	・単価が高くなり過ぎて、特に高付加価値商品はなかなか買えなくなっているため、買換えるとしても今と同程度の商品が選ばれる。
	□	商店街（代表者）	・今後の政策によるが、既存の延長線上であれば、全く期待を持ってない。
	□	一般小売店〔結納品〕（経営者）	・良くなる要素も悪くなる要素も見当たらないため、当分この状態が続く。

☐	一般小売店〔生花〕（経営者）	・物価の上昇は避けられず、ますます購買力が落ちる。
☐	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・10月から日本酒、焼酎、ワインが値上げのため、飲食店でのアルコールの販売は更に厳しい状況になる。
☐	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・10月から値上げする商品も多く、3か月先も物価高が続く見込みであることから財布のひもは固いまま変わらない。消費者は今の生活を維持することが精一杯の状況である。個人の給料や法人の売上が増加しても、それ以上に物価上昇のペースが速すぎて追いつかない。
☐	一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
☐	百貨店（総務担当）	・今年の冬は寒くなるような予報が出ていたが、冬物衣料は値段が高いこともあり、以前に購入した衣料品の着回しになり、なかなか売上を押し上げる要因が見当たらない。インバウンド消費もなかなか回復しない状況であり、百貨店としてはいろいろな転換期に差し掛かっている。
☐	百貨店（営業担当）	・季節要因を除くと春先以降の来客数は横ばいが続いており、今後大きく変化する兆候はない。
☐	百貨店（営業担当）	・国際情勢も悪い意味で変化がなく、大きな変化要因がない。政権政党の総裁選挙も景気に影響はないと考える。
☐	百貨店（販売担当）	・国内需要の高まりやインバウンドの安定があれば上向くが、現状維持と予想する。
☐	百貨店（販売担当）	・秋冬商材の販売時期が短くなるため、想定よりも売上は上がらない。
☐	スーパー（店長）	・価格競争で他社に勝てない。
☐	スーパー（店員）	・お歳暮や年末商戦を前に来客数は伸びない。
☐	スーパー（店員）	・全く変わっていない。
☐	スーパー（販売担当）	・年末に向けてこのまま進む。悪くなる要因が見つからない。
☐	コンビニ（企画担当）	・客単価の上昇による売上の増加傾向は続いており、この状態は当面継続する見込みである。
☐	コンビニ（エリア担当）	・春先のような来客数が多いインパクトは薄れている印象で、大きな伸長は余り期待できない。
☐	コンビニ（店長）	・業績その他が余り芳しくない状況であり、前年と比べて客の動きも鈍っている。
☐	コンビニ（本部管理担当）	・政権政党の総裁選挙があり、今後の大きな経済指標のトピックスとなることが想定されるが、小売業界に影響があるかは疑問である。また、株価は上昇しているが、小売業界がその恩恵を受けている感覚はない。
☐	衣料品専門店（売場担当）	・年末年始を迎え、ボーナス支給時期ということもあり、多少の景気回復の要素にはなるだろうが、根本的な回復とはいえない。
☐	家電量販店（店員）	・グレードの高い商品の受けが良く、しばらくは現状のままの見込みである。
☐	乗用車販売店（営業担当）	・株価が上昇しているが、景気が良くなっているとは考えられない。収入が増えていてもそれ以上に支出が増えていて、収入が増えている実感がない。
☐	乗用車販売店（経営者）	・給与所得も上がりつつあるが、様々な物やサービスの値段がそれ以上に上がっているため、消費に息切れ感がある。
☐	乗用車販売店（経営者）	・ほかに出費が多いため、車関係への支出は最低限の状況が続く。
☐	乗用車販売店（経営者）	・景気が上向く要素がない。
☐	乗用車販売店（従業員）	・今後は生活に関連する費用や商品価格の引上げが発表されている。これから秋の増販期を迎える。猛暑の影響もあり客の動きも弱かったが、これから気候も良くなり客の活動も上向くと期待される。一方で、基礎的なコストの上昇が客の行動の足かせとなると懸念される。
☐	乗用車販売店（従業員）	・再販価格が高い車がまだ多いため、高額車両が売れるうちは販売単価は高い。
☐	乗用車販売店（従業員）	・ガソリン代も以前と比べて高値のままで、車検、点検、保険などを含めると車の維持費が高いという声が多くなっている。こういう声が多いときは車の販売が鈍る傾向がある。依然、先行きは不透明と言わざるを得ない。

☐	住関連専門店（営業担当）	・新築住宅、企業の設備投資、官公庁関係など全体的に低調だが、大規模改修や中小のリフォーム工事は伸びている。商業施設についても改修工事が多くなっている。
☐	その他専門店〔書籍〕（社員）	・年末に向け受注量増加の傾向はあるが、輸入商品に為替の変動が大きく影響する。
☐	その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・米国による関税や物価、エネルギー価格の高騰の影響を見極めていく必要がある。
☐	高級レストラン（経営企画）	・物価高騰から節約志向は続き、横ばいで推移する見込みである。繁忙期へ向け販売促進強化による来客数増加を試みる。
☐	一般レストラン（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
☐	一般レストラン（経営者）	・自店の周りでは、大都市のような景気の良さを感じることはない。諸物価の上昇が著しく、生活が追い付かない。
☐	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・年内は良くも悪くもない状況が続く。
☐	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・消費者は物価高を気にしているものの、消費を抑える行動には出ていない。年末に向けて、消費動向は大きくは変わらない。
☐	観光型ホテル（経営者）	・予約数の前年比では、2～3か月後の宿泊客が8～10%程度増加傾向にある。新型コロナウイルス感染症発生前の水準まで回復しつつあることと、秋の行楽シーズンで需要が底堅い。
☐	都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
☐	都市型ホテル（営業担当）	・米国関税も現状では影響が少ない様子であり、株式も安定している。為替も変わらない状況を勘案すると、余り変化がない見込みである。懸念点である我が国の政局や物価高は余り影響しない。
☐	旅行代理店（経営者）	・少し良くなった状態を維持できる。
☐	旅行代理店（経営者）	・年末にかけての申込みは旅行費用がますます上がるような傾向になり、春以降も早い計画が求められるなか、休暇の段取りとの兼ね合いが正月明けは難しい傾向にある。また、受験シーズンに入るため春休み、ゴールデンウィークの需要まではそれに関係ない客層を狙う必要があり、年配の客層には物価高の海外旅行よりも国内発クルーズ旅行が好調である。
☐	旅行代理店（経営者）	・高齢者の蓄えがあるうちは大都市圏では目立たないが、およそ1時間ほど郊外へ車で移動すれば、駅前でさえ閉店した飲食店や食料品店が目立って増えている。賃上げとインフレに頼っている、じわじわと経済活動の衰退を待つばかりで、ばん回はできない。産業構造の転換を早期に都市づくりや農業、水産業なども含めて指針を作り長期計画を立てない限りは、ゆでガエルと同じ状況下とみられる。
☐	旅行代理店（営業担当）	・例年社員旅行などは年末にかけて取扱が減る時期だが、ドライバー不足によってバスが手配できず、秋から12月へ実施時期をずらしてもらった客先もあり、例年より取扱件数は増えている。
☐	旅行代理店（営業担当）	・急に夏が終わり短い秋に突入した感じであるが、行楽シーズンに合わせた旅行と秋の紅葉見物の旅行申込みは例年と大して変わらない。3連休を利用した旅行は相変わらず申込みが多い。しばらくは良しあしが変わらない状態が続くとみられる。
☐	通信会社（営業担当）	・物価高騰の流れが止まらない。
☐	テーマパーク（職員）	・客の様子は変わらない。
☐	テーマパーク職員（総務担当）	・集客はずっと伸び悩んでいる。秋季イベント開催によるばん回が期待できるが、気候に左右されやすい屋外イベントが多く、心配の種が尽きない。
☐	パチンコ店（従業員）	・スロットの来客数は微増し、パチンコは微減という傾向は今後も続く。
☐	美顔美容室（経営者）	・自宅用ケア商品のキャンペーンが継続中であるため、今のペースが続く見込みである。
☐	美容室（経営者）	・米の値段が下がらず、その他の物価も上がり続けており、明るいニュースがないため当面現状のままである。

□	美容室（経営者）	・物価高騰への対策が必要である。減税等の措置を執らない限り生活は楽にならず、飲食店や美容院は厳しいままである。
□	住宅販売会社（従業員）	・人件費や資材費の高騰はあるが、大きな変化はない見込みである。
□	住宅販売会社（従業員）	・良くなる要因が何も見つからない。スナック菓子など食料品はまた値上げの波が来つつあり、来月は変わらなくても11月頃から下降するかもしれない。新内閣には期待する。
□	その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・住宅新築現場が減ってきている。
▲	商店街（代表者）	・様々な物が値上がりしており、今後は米国の関税の影響により輸出企業がダメージを受けることが予想され、景気の先行きは悪い。
▲	一般小売店〔書店〕（経営者）	・物価はまだ上がっているのに、給料も年金も上がらない。景気はこのまま徐々に悪くなっていく。
▲	一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・暑さが10月後半まで続くとの予報で、秋冬商材の需要が見込めない。
▲	百貨店（企画担当）	・これまで好調だった食料品、特に菓子類の動きが急に鈍くなっている。以前から価格の高騰については取り上げられていたが、それほど影響なく推移していたものの、9月に入った辺りから毎日売上が前年を下回るようになり、現在も続いている。この先、影響が他のアイテムに広がっていくことを懸念している。
▲	百貨店（経理担当）	・富裕層に限っては株高に伴い消費は堅調に推移しているが、富裕層以外の所得者層では物価高に伴う買い控えがみられ、また、インバウンド消費も盛り上がりの兆しはみられず、景気は緩やかな下降曲線をたどる。
▲	百貨店（販売促進担当）	・インバウンドの落ち込みと景況感の悪化もあり、今後しばらく下向きが続く。
▲	スーパー（店長）	・商品の値上げ要請は継続している。
▲	スーパー（店長）	・継続する商品価格の上昇に伴い、来客数の減少傾向が続く。
▲	スーパー（店員）	・担当カテゴリーの商品価格が原料事情により高騰することが予測される。
▲	スーパー（販売担当）	・いろいろな内外の環境の不透明感が払拭されているとはいえず、政治的不安定なことから経済政策が進むとは考えにくい。寒さの到来による季節商材の需要拡大頼みが強い。
▲	コンビニ（店長）	・10月から食品が値上げのため、景気に影響がある。電気・ガス料金の補助金もなくなるため、買い控えが起こる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・政府による電気代の補助金がなくなり、更に物価が上がることを考えると楽観的な予想はできない。
▲	コンビニ（店長）	・売れ筋商品が10月から大幅に値上げするため、その影響を受けるおそれがある。値引き販売促進商品が以前よりよく売れている。
▲	コンビニ（店長）	・10月も値上げ品目が多く、ますます節約志向が高まることで、ディスカウントストアやドラッグストアに客が流れる。
▲	衣料品専門店（販売企画担当）	・物価高が続けば、衣料品は最初に打撃を受けるため、景気は悪くなっていく。
▲	家電量販店（フランチャイズ経営者）	・現行OSのサポート切れが迫り、パソコンの売行きが伸びている。高単価な商品が売れているため売上は前年並みだが、来客数が前年比15%減少のため今後の売上に影響が出る見込みである。パソコン特需も10月一杯で終わりそう。
▲	乗用車販売店（営業担当）	・ここ半年くらい、徐々に新車の販売台数が減り、代わりに中古車の販売台数が増えてきた。来店客の反応をみていると、この先も同じ傾向が続く見込みである。
▲	乗用車販売店（販売担当）	・車両本体価格がかなり上がり、金利も上がっている。新規の客も大分減ってきており、今後も厳しい状態が続く。
▲	通信会社（企画担当）	・新首相の政策により大きく変わってくるであろうが、今のままの政策では物価高の影響が継続し、景気は下降の一途をたどる。
▲	観光名所（案内係）	・夏のような暑さが続き、今後の景気にも天候が大きく影響する。あちこちで災害のような雨が降り、このような状況が続くとイベントの多い我が国は大きく影響を受ける。
▲	ゴルフ場（経営者）	・最低賃金引上げに伴う人件費の上昇が、今後の経営に影響を及ぼす。

	▲	理美容室（経営者）	・ 様々な物が値上がりし、生活が苦しくなっている。
	▲	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・ 介護保険制度による価格設定の制約が物価高騰による市場環境に適合せず、サービス事業者が身を削るばかりである。
	▲	設計事務所（職員）	・ 総裁選挙や、米国関税の影響などで景気が不安定な状態が続く。
	▲	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・ 物価高騰の影響は止まらず、値上げラッシュが続きますます営業がしづらくなっている。この先景気の後退が心配である。
	×	百貨店（売場主任）	・ サンドルを履いてブーツを探しに来る人やネットで靴を買って失敗したからといって店頭に見に来る人は多いが、いずれも試着程度で購入には至らない。スーツ用の紳士靴も今年は入荷が遅く、10月末頃になるとメーカーから連絡があった。ファッションに敏感な客の来店はあるが、それに伴う商品がそろっていないため売上は厳しい。
	×	コンビニ（店長）	・ 報道されているように10月からの多品種にわたる値上げは、かなり深刻な心理的影響を消費者に与えることが予想され、厳しい状況になることを覚悟している。9月から既にそうであったが、涼しくなってドリンクの購入が圧倒的に減るのに、まだ温かい物も欲しくないという消費行動により、10月も来客数、客単価共に伸びが見込めない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・ 天候や景気に関係なく、シーズンごとに値の張る商品を購入してくれた客が立て続けに亡くなった。そういった常連客に支えられて今日まできたが、今後はますます厳しい。
	×	一般レストラン（従業員）	・ 最低賃金も上がって経営側は厳しい。
	×	住宅販売会社（従業員）	・ 新築住宅のみならずリフォームの受注量も減ってきたため、先行きが全く見通せなくなってきた。
	×	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・ テナント抜けが増加している。
企業 動向 関連 (東海)	◎	—	—
	○	化学工業（営業担当）	・ 来年1月以降、電子材料薬液は更に増量の見込みである。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・ 年末にかけて需要が見込まれるため、受注量が増える。見振りも多数出しており、競合先の様子にもよるが、年末にかけて景気は良くなる。
	○	輸送業（従業員）	・ 総裁選挙で新たな首相が決まることで、消費の伸び悩みが解消され、取扱物量の増加が期待できる。
	○	輸送業（エリア担当）	・ 米国との関税交渉の決着により、やや良くなる。
	○	金融業（従業員）	・ 年末年始の帰省などにより、景気は活発になる。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・ 例年であれば秋の需要で受注量や販売量が増える時期であるが、10月から原材料の値上げが始まり、販売価格への転嫁は大変難しく、採算面で苦境が予想されるため景気は今と変わらない見込みである。
	□	化学工業（総務秘書）	・ 特段景気が悪くなるトピックが見当たらない。政権政党の総裁が変わり、景気対策に注力する可能性が高そうである。株価が高値更新を繰り返しているが、その反動が起きることは懸念している。
	□	窯業・土石製品製造業（社員）	・ 米国の関税についてはまだ不安要素はあるが、生産量の大幅な落ち込みはなさそうで、しばらく現状維持の様相である。
	□	一般機械器具製造業（経営管理担当）	・ 受注量、販売量見込みから判断した。
	□	一般機械器具製造業（営業担当）	・ 関税により設備の価格が高くなるため、北米地域での半導体関連設備投資の勢いが弱くなっている。他地域ではこの落ち込みをカバーするほどの勢いが無い。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・ 現状は必要数量の生産に戻っている。
	□	建設業（役員）	・ 子育て世代の世帯、特に子供が2人以上いる世帯が新築物件を購入する割合が減っている。代わりにシングル世帯や高齢者の購入割合が増えている。
	□	建設業（経営者）	・ 政治が安定するように、新内閣には責任を持って取り組んでほしい。旧態依然で変化がなければ、先行きに期待はできない。

	☐	建設業（営業担当）	・消費者は値上がりや先行きの値上がり予想などを踏まえて金を使うので、先の備えで消費は減っていく。受注額が上がっても結果的に別のところで支出が増えるため、景気は良くならない。
	☐	輸送業（経営者）	・物価高に対する消費意欲の低迷が収まらないと消費財、耐久財及びその関連も含め物量の増加が望めない。
	☐	輸送業（従業員）	・運送業は規制がいろいろと厳しくなっており、人手不足も課題である。今期後半の見通し次第だが、荷主だけでなく同業他社の動向も注視したい。
	☐	輸送業（従業員）	・景気や給料が特に上がっている実感はないため、個人消費が伸びていない。
	☐	輸送業（エリア担当）	・半年ほど前に行った単価交渉の回答が全く出てこない。単価を上げる気がなくなってしまったのか、法改正もあったため単価上昇には期待していたが、荷主の現状認識に疑問を持つ。交渉のテーブルにつくよう行政の後押しに期待する。
	☐	金融業（従業員）	・国民の生活が2極化している印象が強い。総裁選挙の結果次第で将来の景気は大きく左右される可能性はあるが、現状は横ばいのまま推移する見込みである。
	☐	金融業（企画担当）	・特に中小企業にとっては、人件費の上昇は原価率の上昇に直結し、会社の業績にも直結してくるため、大手ほどすぐに上げることは容易ではない。中小企業の賃上げが広がってこないと景気は良くならない。
	☐	不動産業（経営者）	・今後は例年同様に晴れの日が多くなりそうであり、外出や遠出をする人は増加する見込みである。売上の増加傾向は変わらず、前年を上回る状況が続く。
	☐	広告代理店（制作担当）	・顧客企業の積極的な動きは余りみられず、新規の広告も単発的な依頼が微増する程度である。
	☐	新聞販売店〔広告〕（店主）	・最低賃金の急な上昇に将来を不安視している。新規事業や第2の収入源確保が課題として残っている。
	☐	公認会計士	・米国関税については一旦は落ち着いたものの、海外取引を行う企業では投資意欲は横ばいのままである。雇用についてはどの企業も積極的に行っており、求人倍率などはどの企業でも上がっている。しかし、総裁選挙が来月に行われることと、10月から物の価格が上がり、光熱費の補助も終了することから、個人消費は年末までは動きが鈍くなることが予想される。
	☐	会計事務所（職員）	・冬のボーナスが出る時期で、正月準備に幾らかは消費に回るとみているが、例年のことであり景気としては変わらない。
	☐	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・インバウンドによる問題が数多く出てきているが、多くの人が来日するのは有り難いことであり、我が国はこれにうまく対応する必要がある。食事や景色ばかりでなく、いろいろな生業や芸術・芸能を体験してもらい、我が国の魅力を海外にアピールするべきである。
	▲	食料品製造業（社員）	・食料品の値上げが発表されたことに加え、電気料金、ガソリン価格の補助金縮小も見込まれ、消費の先行きは厳しい。
	▲	食料品製造業（営業担当）	・値上げの影響により販売数は低下の傾向が続いている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・仕事量の落ち込みがどの程度になるか、皆とても気にしている。安値受注につながらないことを祈る。
	▲	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・米国の関税問題が解決するまで先行きが分からない。
	▲	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・賃金が上がったら物価も上がって景気回復しているのか分からない。物価が高すぎるため逆に賃金が下がったとみている。
	▲	通信業（総務担当）	・ゆとりのない生活が将来も続くと言想されるため、心にも安心感がなく、金に余裕がないつらい日々を実感している。
	▲	会計事務所（職員）	・最低賃金の引上げなど賃上げの風潮が続いているが、以前からなかなか販売価格に転嫁できておらず、実質自社の負担が大きくなっている。また、米国の関税の影響により受注が減り、今後も厳しい状況が続く見込みである。
雇用	×	鉄鋼業（経営者）	・良くなる要因がなく、先の見積りもない。
	×	金属製品製造業（経営者）	・受注量の減少が続いており、景気は悪くなる。
	◎	*	*

関連 (東海)	○	民間職業紹介機関（営業担当）	・年度末の転職及びボーナスをもらってから転職を検討し始める、活動意欲を持ち合わせた転職希望者が増加する。
	□	人材派遣会社（社員）	・先の予約状況は余り良くない。来月中旬頃には忘年会の予約の問合せが増え良くなると期待する。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・全体の採用数について大きな変化はないと予想される一方、派遣社員の直接雇用を求める派遣先企業が増加している。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・政府から賃上げのための具体的なアクションが示されていない。
	□	アウトソーシング企業（エリア担当）	・地元自動車メーカーは堅調で推移しているが、他の自動車メーカーは、販売不振や新型車種の売行きに左右される。派遣労働者の採用においても動きがあるため、より良い人材を確保し福利厚生を充実させて定着を図る。
	□	職業安定所（職員）	・一部の自動車部品製造業から米国関税を不安視する声は聞かれるものの、人手不足の状況は変わらず、現時点で大きな変化はない。
	□	職業安定所（職員）	・今後の米国関税、最低賃金引上げの影響を懸念しているという声が聞かれ、先行き不透明な状況が続く。
	□	職業安定所（職員）	・中小企業において、原材料費、燃料費、運送費など各経費の高騰が引き続き事業活動への負担となっており、人件費に費やす予算の捻出が困難になっている状況が見受けられる。一部産業での人手不足はかなり深刻な状況となっているものの、物価高騰に伴う消費動向の停滞等により、受注などが堅調に推移している産業でも、新たな求人提出を控え、様子見をしている企業がある。この先の経済動向が予測できない状況は続いているものの、現段階において大きな生産調整や雇用調整などの情報は入っておらず、当面、景気動向の大きな変化は生じないと判断する。
	□	職業安定所（職員）	・最低賃金引上げに加え、物価の高止まりによる影響により、大きな改善は期待できない。特に中小企業の経営維持についても懸念される。A I の活用が、雇用にどのような影響を及ぼすかも注視したい。
	□	職業安定所（職員）	・求人数に大きな変動はみられないが、最低賃金の引上げによる影響が懸念される。
	□	民間職業紹介機関（窓口担当）	・求人数は増加しているものの求職者数が一定数を超えず、この状況を脱しない限り景気は上向かない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・2026年の大学新卒求人について、現在も継続して採用活動を行っている企業は多いが、前年度と比較して求人数自体に大きな変動はない。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	・年内に開催予定の大学3年生に向けた就職ガイダンスで、参加希望法人の数は前年とほぼ同数で、ほぼ同じ法人であることより、法人の採用意欲に大きな変動はない。
	▲	人材派遣業（営業担当）	・物価上昇に加え最低賃金引上げにより企業の利益率は圧迫されることから、景気が好転する要素が見当たらない。
	▲	人材派遣会社（社員）	・例年10～11月は求職者の動きが低迷する。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・自動車関連において、米国関税の兼ね合いで人員投資は様子見ムードが強まり、先進運転支援システムでは中国勢との競争でコスト抑制の話が聞こえている。
	▲	職業安定所（職員）	・新規求人倍率が下がっている。事業所から最低賃金の引上げが企業収益を圧迫しているという声を聞く。
	▲	職業安定所（職員）	・物価高が続くなか、人手不足で人件費も上昇しており、企業を取り巻く環境はより一層困難になっていると多くの事業所から聞く。
	×	—	—